

学 校 経 営 方 針	昨年度の成果と課題	本 年 度 学 校 経 営 の 重 点
本校の教育方針に則り、教職員が相互に連携し、生徒一人一人の特性を生かす教育指導を積極的にすすめることにより、自ら学び、自ら考え、自ら行動する心豊かな生徒を育てる。 1 多様な学習指導方法を取り入れ、生徒全員の学力を向上させる。 2 文化・芸術に対する関心を高め、人格形成と学力向上に資する。 3 3年間を見通した進路指導計画に基づいて、進路希望の実現を図る。 4 高校生としてふさわしい行動がとれる判断力を養う。 5 自主的活動をさらに活発化させ、自治能力の育成を図る。 6 民主主義と基本的人権について正しく認識させる。	1 課題のある生徒の共通理解を図り、実態に応じた指導を行うことで、一定の成果が得られた。また、教科ごとに授業アンケートの分析を行い、教員研修で成果と課題を共有した。基礎学力を定着させるために指導方法の改善が必要である。学期ごとに家庭学習強化週間の取組を実施したが、次第に家庭学習時間が減少する傾向にあるため、対応策の検討が必要である。1・2年生に対する進路指導を強化し、生徒の進路意識の向上を図ろうとしたが、十分な成果が得られず、さらなる方策を検討する必要がある。 2 制服の導入や頭髮加工生徒に対する粘り強い指導によって、身だしなみについては進展がみられた。自転車のルールマナーについては、生徒の協力もあり、一定の成果が得られた。携帯端末の使用については、規律ある行動がとれるようになってきたが、情報モラルの理解とその徹底に関して新たな課題が生じている。 3 行事や部活動を中心に、自主自立の力を身につけていけるよう指導・援助を行った。学園祭では生徒自治会幹部会や委員が中心になり、概ね取組を成功させ、リーダーの成長や仲間づくりも一定進んだ。生徒の代表としての生徒自治会の意識は高まり、次年度に引き継いでいこうという姿勢が生まれてきている。	1 授業規律の確立と学習習慣の定着を図り、基礎学力を充実させる。 2 基本的生活習慣を確立させるとともに、高校生活における基本的なマナーを身につけさせ、かつ自律的な行動がとれる力を養う。 3 自分の将来について明確な目標を持たせ、その実現のために、「学習活動」と「部活動や生徒会活動などの課外活動」とを両立できる生徒を育成する。

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	No	評 価			成果と課題
組織・運営	◇役割分担を明確にし、組織的な学校運営を図る。	◆各分掌が担任を支え、担任が中心となって生徒指導を行う指導体制を確立する。	1	B	B	A	担任が中心となって生徒指導を行う指導体制の基盤は作れたが、まだ学校全体のものにはなっておらず、課題は残る。 副担任制の導入により、昨年度に比べると担任以外の教員と生徒との関わりが強くなったが、担任と各分掌との連携を強化することが課題である。 各種会議を精選し、会議を効率的に運営することができた。また、会議を時間内に組み込み教員が生徒と向き合う時間の確保が出来た。 年度当初の行事等を精選したり実施方法を工夫したりすることにより授業時間数を確保した。 外部団体と連携するなど、土曜授業を活用した1年生の「総合的な学習の時間」の学習内容を工夫し、一定の成果を得た。 土曜授業の取組や各種事業の実施などにおいて、教職員と事務部との連携を強化できた。 一人一人の生徒に「良い学校」と思われることを常に考え、適切に対応できた。
		◆担任と各分掌及び分掌相互の連携を深め、副担任制の導入等により、学校全体で個々の生徒と向き合う教育活動を推進する。	2	B			
	◇地域から信頼される学校づくりを行う。	◆各種会議を精選し、会議を効率的に運営することにより、教員が生徒に向き合う時間の確保を目指す。	3	A	A		
		◆授業時間数の確保に向けた取組を一層推進する。	4	A			
		◆その時々成果と課題を分析し、外部の意見を積極的に取り入れた学校運営を行う。	5	B			
	◇京都の文化を学習させる取組を充実、発展させる。	◆特色ある取組を実施し、「魅力ある学校づくり」を進めることにより、学校の活性化及び特色化を推進する。	6	A			
	◇教職員と事務部との連携を強化し、府民サービスを推進する。	◆教職員と事務部の連携を密にし、生徒情報の共有化に努める。	7	A	A		
		◆生徒・保護者・府民に対して、丁寧な窓口業務・電話対応に努める。	8	A			

学習指導	◇教科指導力を向上させる。	◆教員研修を充実させ、教科指導力の向上と授業の工夫・改善に努める。	9	B		B	若手教員を中心に様々な研修会に参加したり、指導主事に指導を依頼した研修授業を複数回実施するなど教員研修の充実に努めた。 落ち着いて授業に取り組んでいるが、携帯電話等を操作する生徒が見受けられる。教員がより課題意識を持って指導に取り組む必要がある。 会議を通じて課題のある生徒の共通理解を図り、進級・卒業に向けた指導を行った。 課題提示や小テストを実施したが、家庭学習習慣の定着には至らなかった。 目標を持たせた教科指導や発表の機会を設定することで、主体的に学習に取り組ませた。 新聞を活用したり、発表の機会を設定したりして、生徒の読解力・表現力の向上に努めた。 読書週間等での創造的な活動を通じ、読書活動の推進に努めた。 1年生の土曜授業で伝統文化学習を推進し、図書館では京都検定等に関する蔵書の整備を充実させた。 地域の材木を活用した作品を制作させたり、職人による授業など京都と関連した芸術教育を実施し、生涯にわたって芸術を愛好する心情の育成に努めた。
	◇基礎学力を充実させ、原留・中退、学力不振者を減少させる。	◆授業規律の確保に努める。	10	B	B		
		◆課題のある生徒についての情報を全教員で共有し、進級・卒業に向けた的確な指導を行う。	11	B			
		◆宿題等、家庭で学習すべき内容を具体的に提示したり、小テストを実施したりすることにより、家庭学習習慣の定着を図る。	12	C			
	◇生徒の学習意欲を向上させる。	◆検定受検やコンクールへの応募など目標を定めさせたり、発表の機会を設定したりすることで主体的に学習する姿勢を養う。	13	B			
◇言語活動に関する能力の向上を図る。	◆新聞を活用したり、生徒のレポートを発表させるなどして、読解力・表現力の向上を目指す。	14	B	B			
	◆図書館機能の整備・充実を図り、読書感想文を書く機会を設けるなど、読書活動を推進する。	15	B				
◇文化・芸術活動を推進する。	◆文化・芸術教育を充実させ、豊かな情操を養う。	16	A	B			
	◆地理的・歴史的な背景と関連づけた芸術教育を通して、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。	17	B				
生徒指導 特別活動	◇基本的生活習慣と望ましい生活規律の実践を通し、規範意識の確立と自律的生活を送る資質を向上させる。	◆服装、頭髪、装身具等の身だしなみに関する指導を日常的にすすめる。	18	C	C	C	総じて落ち着いた生活環境が維持できているが、今後は、個々の課題に対してよりきめ細かな指導を充実させることが重要である。身だしなみ指導については、教員間の共通理解に曖昧さが生じ、指導実践の徹底に課題を残した。 全校体制での登校時交通指導立番を実施した。生徒自らが進んで挨拶をする習慣をつけるまでには至っていないなど、引き続き生徒の主体的・自主的行動を引き出すように取り組む必要がある。 携帯端末の使用に関するトラブルはないが、個人情報の流出が後を絶たず、指導に課題が残った。 リーダー育成に関しては、取組のあり方や進め方に一層の工夫が求められる。 部活動加入率は向上したが、途中退部の生徒もあり、質の高い活動内容も含めた部活動の活性化が課題である。 生徒自治会活動については、効果的な取組を企画・運営できるよう関係各所との連携や生徒自治会への指導の時期等を改善する必要がある。
		◆登校時の立番指導を実施し、あいさつ交換によるコミュニケーション活動の活性化を図るとともに、自転車通学に関し自他共に安全な走行ルール・マナーの徹底に努める。	19	B			
		◆校内における携帯端末等の使用ルールについて理解を深めさせ、その取扱いの徹底に努める。	20	C			
	◇生徒の自主性・自発性を伸長させる。	◆学年の枠を越えた交流を通してリーダーとしての資質の向上を図る。	21	C	C		
		◆部加入率を高め、学校行事や部活動に積極的に活動させることにより、集団の一人としての責任感や相互に協力して課題を主体的に解決する能力を育成する。	22	B			
		◆生徒自治会の指導を定期的に行い、自主的活動の運営に責任を持って取り組めるよう指導する。	23	C			

進路指導	◇生徒の進路希望の実現に向けて、進路情報を幅広く収集整理し、個に応じた進路指導を展開する。	◆将来の進路希望に対する展望を早期から持たせ、的確な進路情報を提供すると同時に、計画的・系統的な進路指導を行う。	24	B			進路指導部による「進路だより」の発行と資料・情報の提供はしたが、学年と連携した計画的・系統的な進路指導については課題が残る。土曜学習の受講対象者を見直し、進学補習登録者数や土曜学習参加者総数は増加したが、参加の定着には至っていない。 進路指導部と学年との連携による個別指導を強化し、進路実績の向上については一定の成果を得た。しかし、決して十分なものとはいえず、一層の個別指導と学力向上の対策が必要である。
		◆学年と進路指導部が連携を図りながら、各種模擬試験や進学補習・土曜学習等へ積極的に参加する姿勢を育成する。	25	B	B	B	
		◆進路指導部と各学年各教科の連携を強化し、生徒の課題と成果の共有を図ることにより、進路実績の向上を図る。	26	A			
人権教育	◇自他の生命や人権尊重の立場を明確にし、社会の一員としての自覚と行動ができる力を育成する。	◆ツイッター等を活用する際の人権に関する意識のあり方や取扱いについての理解を深めさせる。	27	B			学年ごとの人権教育は実施したが、学校としての系統だった取組としては課題が残る。ツイッター等を活用する際の発言については、継続した指導を要する。 いじめ調査を2回実施したが、深刻ないじめはなかった。
		◆生徒間によるいじめやいやがらせは絶対に許さない気運を醸成すると同時に、生徒個々の課題に即したきめ細かな指導を行う。	28	A	A	A	
特別支援	◇特別支援教育活動を充実させる。	◆課題がある生徒についての教職員間の共通理解に努め、生徒の実態把握と個に応じた適切な支援活動を行う。	29	B		B	配慮を要する生徒について共通理解を深め、適切な対応に努力したが、課題が残った。
健康・安全 教育	◇生徒が心身共に健康で安全な学校生活を送ることが出来るよう、環境を整える。	◆非常災害等に対する学校の危機管理について、日頃から対応できるように教職員の共通理解を深める。	30	C			学校の危機管理に対する教員研修が実施できなかった。 望ましい生活習慣の確立指導についての分掌間の連携については課題が残る。 生活執行委員の取組について、年度当初の計画の中で実践できないものがあり、課題が残った。
		◆生徒の基本的な生活習慣や食生活を把握し、望ましい生活習慣の確立のための啓発を行う。	31	C	C	C	
		◆生活執行委員による美化やマナーに関する定期的な啓発活動を推進する。	32	C			
学習環境	◇生徒が快適に学習活動を行うことができるよう、校内美化に努める	◆日常の清掃活動を通じて環境や美化に対する意識を高める。	33	B		B	移転後からの清掃活動の変更にも慣れ、きとんとした清掃活動を実施できた。
教育環境の 整備	◇施設・設備を整備・充実させる。	◆施設設備の改修等の課題について、必要性等と予算との関連などから費用対効果を勘案し施工していく。	34	B			費用対効果を常に考え、日常的な小修繕、迅速対応可能な業者選定及び調整を行った。 休日の工事等も行い、施設整備のトラブル対処に努めた。 生徒一人一人の修学保障を常に考え、就学支援金などの援護制度についてよく周知し活用することができた。
		◆各種工事は、生徒の安全確保を最優先に、教育計画に支障のないように配慮する。	35	A	A	A	
	◇修学援護制度を周知し、活用できるよう支援する。	◆修学支援金制度や各種の修学援助制度について周知徹底し、タイムリーな制度活用に努める。	36	A			
家庭・地域 社会との連 携	◇広報活動を充実し、学校の情報を迅速に提供する。	◆ホームページの更新に組織的に取り組み、最新の情報を発信する。	37	A			学校ウェブサイトの更改を行い、6月以降70回以上の更新をした。 中学校訪問を複数回行い、中学校との関わりを強化した。 年間4回の学校説明会を実施したが、生徒・教員の協力体制の工夫が必要である。 全生徒に対して外部人材活用の教育活動を実施した。
	◇積極的な生徒募集に努め、本校への志願者を増加させる。	◆学校説明会への参加を地域の中学校に積極的に働きかけるとともに、内容を充実したものにする。	38	A			
	◇外部の人材を活用して教育活動を活性化する。	◆外部機関との連携を深め、専門的な学習を推進する。	39	A			

学校関係者 評価委員会 による評価	①教員のフットワークの良さを感じた。 ②生徒の登下校時の安全面の指導に手厚いものを感じる。 ③身近に高校があり、交流していることで、中学生とその保護者に良い影響を与えている。 ④薬物乱用防止教育については、今後も指導を継続してほしい。 ⑤家庭との連携を強化し、生徒の学校・家庭での状況を双方が把握するためにも、保護者対象の学校評価アンケートは有意義だと思う。 ⑥生徒が本当に自分のやりたいことを自覚するために、授業時間数を増やして学力を向上させ、丁寧な進路指導を行ってほしい。
-------------------------	---

次年度に向 けた改善の 方向性	①個々の教職員が自分の果たすべき役割を自覚し、分掌部長を中心とした組織体制を強化するとともに、分掌相互の連携を一層深めながら全ての教職員が共通認識のもとで学校運営に参画する「チーム鴨沂」を目指す。 ②質の高い学力を身につけさせるため、授業の質の向上を目指した授業改善を積極的に行い、生徒の希望進路の実現を図る取組を推進する。 ③センター試験受験者を増やすなど、より高い進路目標にチャレンジさせるとともに、将来の社会的・職業的自立のためのキャリア教育の質を向上させる。 ④地域や外部機関との連携を一層強化し、開かれた学校づくりを推進する。 ⑤より一層の学校改革を進める。 ⑥保護者との連携を強化し、保護者と教職員が協力して生徒の教育の向上を目指す。
-----------------------	--